

水害後7年 変わる街の中で 水害を伝え、考える

平成27年
関東東北豪雨災害



2023年2月
見てみようよ！常総市の会

ご挨拶

「見てみようよ！常総市の会」は、平成27年9月に発生した関東東北豪雨災害の教訓を未来の世代に語り継ぐために、水害の約半年後の平成28年2月に結成された市民の会です。

これまで、洪水時の水位を示すステッカーを市内の許可を得た各所に貼り歩く『ステッカーツアー』や、川と“付き合ってきた”常総市の歴史を振り返る勉強会などを不定期に実施してきました。

現在は水害の記憶（影）をふりかえるだけでなく、復興進む常総市の魅力（光）にも目を向け発信していこうとしています。

コロナ禍のため従来のイベントのあり方も再考を迫られる中、2022年度は従来型のイベントとweb活用を組み合わせた新しいかたちの取組にチャレンジしました。オープンストリートマップというweb上のフリーフォーマットを活用し、リアルイベント・街歩きによる水害痕跡&面白ポイント撮影の成果を、マップ上にプロットしていく形で、継続的な“水害痕跡地図作り”を行っていこうという取組です。

このリアルイベントでは、北水海道駅周辺の水害痕跡探しのウォークとともに、常総市の魅力地を訪問する企画として、現在官民連携して大河ドラマ化を目指して運動を進めている「千姫」ゆかりの寺である弘経寺を訪れ御住職にお話を伺いました。暑い盛りの時期だったため、参加者の体調を心配しながらの開催でしたが、無事に皆様に楽しんでいただくことができました。

水害痕跡探しウォークの成果は・・・見事なくらい街から水害の痕跡が失われていました。我々が過去に貼って歩いたステッカーがまだ各所に残っており、必然的にその存在を確認して撮影していく街歩きになりました。時の流れと街の変貌を改めて感じるとともに、水害の事実そのものの継承の必要性をあらためて感じました。

撮影した写真をweb上のマップにプロットしていく“振り返り会”では、我々が昨年度撮影した水害の語り部の皆さんのインタビュー映像集を上映・観賞し、映像に登場いただいた語り部の方々の一部にお集りいただいて簡単なディスカッション会も行いました。その概要を当記録集に収録しておりますが、水害記憶継承にとどまらず、今後の安全で魅力あるまちづくりにまで視線がとどく、示唆に富んだ発言が展開され、意義深い内容になったと思います。

コロナ状況下にも関わらず、また30度を超える大変な暑さの中でお集まりいただいた参加者の皆様に感謝申し上げます。



2022
7.2

水害から6年 10 カ月…**街の過去と未来**を見つめる
北水海道まちなか発見“千姫ウォーク”
+ 防災インタビュー記録映像上映 & ミニフォーラム



北水海道駅前
での受付とイ
ベント開始

7月2日（日）には「北水海道まちなか発見“千姫”ウォーク+語り部インタビュー記録映像上映&ミニフォーラム」を実施しました。前半は、北水海道駅周辺の「水害痕跡&面白ポイント発見撮影まちあるき」と「千姫ゆかりの弘経寺訪問」を組み合わせたウォーク、後半は北水海道の「えんがわカフェ」で、撮影した写真のweb上マップへのプロットを行う“振り返り会”とそれに併せて水害体験の語り部たちのインタビュー記録映像の上映会とミニフォーラム（ディスカッション会）を行いました。

- 12:35 北水海道駅集合 / 受付 開会ご挨拶
- 12:40 **第一部 弘経寺に向け発見まちあるき 出発**
- 13:20 弘経寺到着 千姫墓見学、御住職のお話
- 13:50 えんがわカフェに向け帰路発
- 14:30 えんがわカフェ（北水海道）着
- 14:35 ふりかえり会（参加者が撮影したケータイ写真を投影地図上にプロット）
- 15:00 第一部終了
- 15:10 **第二部 水害を振り返るインタビュー映像作品上映（約30分）**
- 15:40 ミニフォーラム
『 私たちの街はいま・・・水害7年目を迎えて、そして千姫を見つめて』
- 16:20 終了

《当日のもよう 前半》

北水海道まちなか発見ウォーク



北水海道駅前の水害時の
高水位を示すステッカー
(画面中央)

駅前で集合



被災後瓦礫が積み上
げられた森下公園



猛暑の街を歩く



スーパーの柱に残る
ステッカー



事務所の扉にも



6年10か月前の水害
痕跡を探して



結局、当団体が過去に貼った高水位ステッカー以外には水害痕跡は発見できなかった。目に見える街の姿としては、6年10ヵ月前の水害の記憶は、新しい街並のなかで、まるでなかったかのようにキレイにぬぐい去られていた。

千姫ゆかりの弘経寺へ





御住職にお出迎えいただく



千姫の墓へ



墓に各自お祈り



御住職のお話 千姫と弘経寺の関わりなど



このあと秘仏も見せていただき、とっておきの秘密のお話も聞かせていただきました。ありがとうございました。

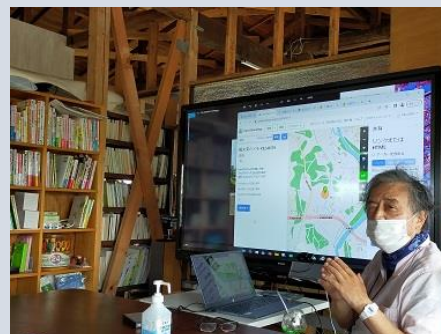
《当日のもよう 後半》

振り返り会（撮影写真 web マップ上プロット）

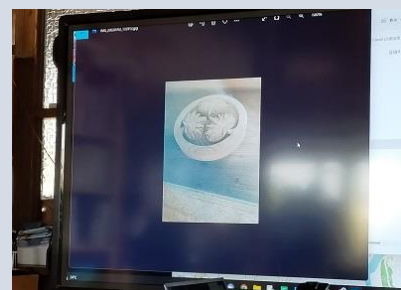
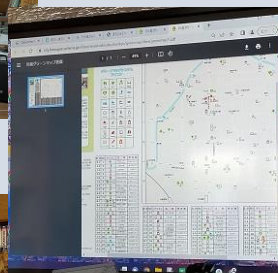
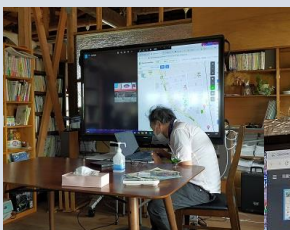


開会準備

北水海道の「えんがわカフェ」で振り返り会開会



参加者が自分の目線で“発見”したまちなか風景をケータイで撮影、それをメールいただいたものをPCで確認、web 地図上にプロット



参加者が撮った“オモシロポイント”写真。これナニ？

オープンストリートマップ（OSM）へのアップロードは時間がかかり、リアルイベントでの写真MAPプロットには不向きなのが判明。結局OSMへのUPは後日とし、開催時間中は急遽Google mapを活用することに。

語り部インタビュー記録映像上映&ミニフォーラム



6人の語り部インタビューをつないで作品化した23分の映像作品を上映



最後のプログラム「ミニフォーラム」

一日のふりかえりミニフォーラム（ディスカッション）

〈登壇者（左から）〉

司会）佐藤孝俊 見てみようよ！常総市の会
石塚理治さん 語り部・石塚輪店（常総市橋本町）
加倉田考一さん 語り部・常総市新井木町在住
西田将人さん 常総市副市長
長岡素彦さん（写真プロット共有振り返り会コーディネイター）
一般社団法人地域連携プラットフォーム共同代表

〈討議内容まとめ〉

◆それでは最後の部を始めていきたいとおもいます。いま映像のほうに登場していただいた方も無理をお願いして登壇していただいておりますし、（あとで御紹介致しますが）行政の方も参加いただいています。私は「見てみようよ！常総市の会」の佐藤孝俊です。よろしくお願ひします。

では私の方からご紹介させていただこうと思います。まず、私の隣におられるのが先ほどの映像の最後のほうで非常に印象的な言葉を語っておられた石塚輪店の石塚さんです。

真ん中におられるのが、先ほどの映像で、ボランティアに来られたお子さんの忘れ物の手袋を見せていただいていた新井木の加倉田さんです。その隣におられるのが副市長の西田さんです。いちばん端は先程からコーディネートをされている長岡さんです。

西田：今日自分は副市長という立場というよりも、こちらに来る前に国土交通省で河川や防災のほうをやっていたことからそちらの面からお話させていただければと思います。

◆今日のイベントの第一部から来られたからは、北水海道の街歩きをしていただきました。水害の痕跡を探そうとしていたのですが、北水海道の街のなかにはもう見事なくらい水害の痕跡は消し去られていました。当たり前のことですが皆さん建て替えられたりして街の記憶としては表面的には失われています。ただ、我々が過去にステッカーツアーと称して貼って歩いた水害時高水位を示すステッカーだけが残されていて、これが雄一当時の水位を物語っている状態です。ただこの貼られたステッカー自体も劣化していて、これはまさに記憶の風化を考えると象徴的なことだと思います。そんな中で、語り部の皆さんには貴重な証言を語っていただいておりますが、このような証言を記録に残していけないと、それすらも失われてしまうと危機感を感じています。

では石塚さんは今回ご自分が語っておられるのを改めてご覧になってどう思われますか？

石塚： 髪とかしておけばよかったなあって（会場爆笑）

冗談はさておき、、 水害のことを思い出すとき、つらかったことや苦しかったことを思い出すときはある意味冷静に思い出すんですが、その中で嬉しかったことをきかされると今でも涙腺が緩みます。水害って悪いことばかりのイメージなんだけど、その中で、今まで気付かなかったよかったこともたくさん経験しているんです。そういうことを思い出すと、7年たっても今でも涙腺が緩むんです。それが水害が僕にくれた宝物なんだと今では感じています。

◆加倉田さんにはボランティアの女の子の話をしていただきましたが、まさにこのお話を多くの人に聞いていただきたいと、映像に記録しました。

加倉田： いちばん思い出すのは女の子とお母さんです。当時は余裕もなくて名前も聞いていないし、どこから来たかも聞いていない。唯一聞いたのは学年だけで、4年生だと。いまでもたまに考えるんですけど、いまは中学3年生になっているはずだと。きっと勉強やスポーツに頑張っているんだろうなと想像しています。手袋はまさに宝物です。残念ながら一回洗ってますけど（会場爆笑）。大事に棚にしています。

見てみようよ！常総市の会・中村（会場より）： 加倉田さんは私たちが最初にうかがったとき、ボランティアに来てくれるひとのためにまずトイレをつくったというお話を聞いて鳥肌モノで感動しました。

加倉田： とくに女性は必要だと思ってね。うちは農家で家の外にトイレがあったのでまずそこを直したんです。

◆水害自体は不幸なことだけれど、そのあとのつながりで得たことのすばらしさは映像でも多くの方が語っておられました。水害はもちろんなくなってほしいし、なくすために取組がなされることが必要ですけれど、特に常総市の場合は、水害後のボランティアに全国から多くの人に集まっていたいただいたその“つながり”を大切に、その方たちとのつながりを保ちながら、今度は観光など、常総市の光を観に再訪いただけるような促進施策につなげていけるといいと思います。ここで副市長にコメントいただくのですが、特に何も約束されなくとも大丈夫です（笑）。

西田： 副市長という立場で常総に来させていただくと、観光もそうなんですが、外の企業の方が本当に多くの常総市の可能性を話してくださるんです。コロナ禍になって、東京から出ていく人も多いという状況で、我々のいる場所は距離感として逆にチャンスを迎えているのかと。

◆コロナ禍をチャンスと考えることは大切ですね、常総市の水害についても起こってしまった不幸な事、とだけ捉えるのではなく、全国に広がった“つながり”を財産として考えるあり方がよいのではないかと思います。水害記憶の継承ということも、水害の事実の記録だけでなくボランティアの顕彰に力点を置くのもよいのではないかと思います。長岡さんは災害と観光などについてコメントはございますか？

長岡： 川越は古い街並が残っているということで観光的に注目を集めました、これは耐火建築なんです。江戸から明治にかけて川越は大火があり、当時の人たちは、この街をどう守ろうか、と考えて、耐火建築の街づくりを進めてきた。だから観光のために残したというより。防災の知恵が生きて現代までそれを残すことができたんだと思います。まあ、本当に注目を集めたきっかけは大河ドラマの「春日局」なんですけどね。ラッキーだったわけです。そんな意味でも常総市は千姫で大河を狙うというのは面白いですね。川越はラッキーな面がありましたが、この街を守ろう、という人々の意識の大切さはここ常総でも水害があったからこそ強く感じておられるのではないのでしょうか。

◆「町を想う」気持ちは皆さんも強く持っておられると感じます。石塚さんは、これからの街づくりについてどうお考えになられますか？

石塚： これからのまちづくり、ですか？ 副市長を前にしてですか？？！！（一同爆笑）

これからの街づくりは本当に難しいと思う。水海道小学校の生徒数をみるとこの50年で3分の1になっている。この3分の1の生徒が生み出す子供の数はその3分の1になるかもしれない、そんな中での街づくりは、本当に何を残していくかを考えるコンパクトな街づくりが大切になってくると思う。何を残すか、の中で、絶対に残していかなければならないのが常総市の人の“人のよさ”。これを大事に残していくにはやはり行政にしっかりまとめていってもらわなければならないと思う。副市長がおられるので言わせていただきました（笑）。

◆加倉田さんは水害の経験を経て、何を残していきたいと考えますか？

加倉田： 近所のつながりが一番大切だと思います。つながりがないと人も孤立してしまう。人だけじゃなく犬や猫も孤立したら生きられません。水害のとき、犬を助けたんですが、3日も私の後をついて歩いていました。犬も食べなければなりませんから。

◆つながりを残していく、この大切さはまさに水害の教訓ですね。副市長はこの部分はどうか考えられますか？

西田： 私はこちらに来る前に名古屋のほうで河川事務所の所長をしていたんですが、自治体の方とお話ししていると、どうもあまり進まない。こっちにきて驚いたのは、都市部と違ってなのか、コミュニティがしっかりしているんですね。この部分が常総市のいいところ、残すべきところだと思います。自助共助公助の中で公助だけではもう立ちいかないのははっきりしています。そんな中でこのコミュニティのつながりの強さは心強いと感じています。防災の施策を考えると、中央での考えと現場の感覚とはどうしてもずれてくる部分がある。水害が実際にあったこの街で現場の感覚を大切にすあり方を感じながら考えていきたいと思っています。

街づくりについてですが、さきほどおっしゃられたように、学校の生徒数からも、人口減からは逃れられない。残さなければならないものがあると同時に、何を残さないかも考えていかなければならない。大事なものは変化に柔軟に対応していくことだと思います。今後は、若い人が当市に魅力を感じてもらえるように DX を含めていろいろ新しいことを取り入れていかなければならないと思います。それは行政だけでできることではありませんから、こうして皆さんの“熱い声”を聴かせていただくことはとても大切だと思っています。

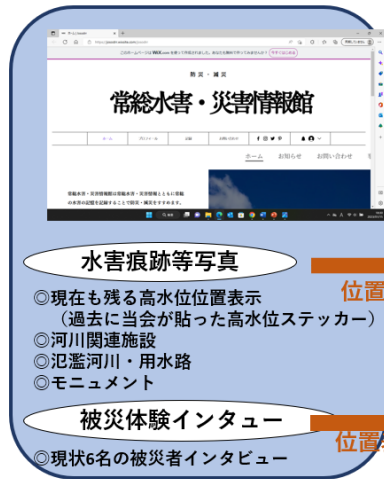
◆本当にこうした場に副市長が出てきていただけることがありがたいと思いますし、（会場の）皆さんにとってもよいのではないかと思います。長岡さん、時間も迫ってきましたが、今日はオープンストリートマップを使っての展開でしたが一日を振り返るといかがですか？

長岡： オープンストリートマップはひとつのテクノロジーなので。テクノロジーは手段なので、それ自体では何かを残すことはできません。何かを残すのは、まさに常総市の皆さんであり、何を残すかを諦めず考え続けることがコミュニティの維持につながると思います。

◆まだまだ続けていきたいくらいの話の深まりではありますが、そろそろ時間がきたようです。本日は御登壇の皆様誠にありがとうございました。そして熱い中にもかかわらずお集りいただいた皆様、本当にありがとうございました。「見てみようよ！常総市の会」では、引き続きこのような活動を続けていきたいと思っておりますので、機会があればまた是非御参加、御支援をお願い致します。本日はありがとうございました♪

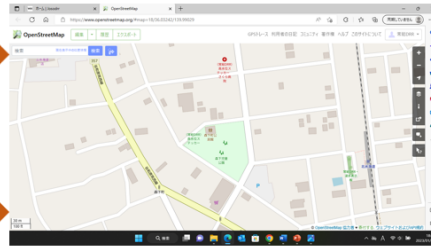
OSM活用の構造

OSMに連動していく基本サイト
(オリジナルサイト) ※本年度は仮制作



OSMサイト

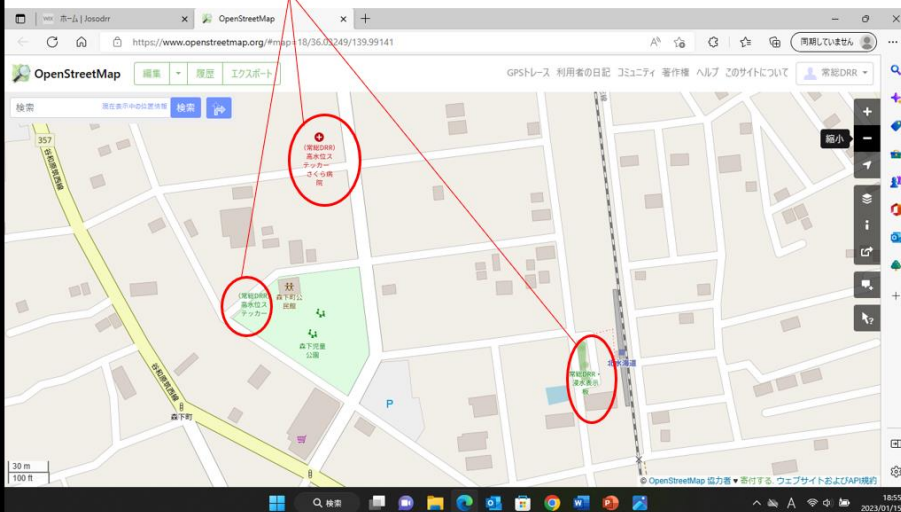
OSM既存地図上に、「常総DRR」(作成者名)で吸い皿外関連情報(文字情報のみ)を掲載していく



OSMに連動していく基本サイト
(オリジナルサイト) ※本年度は仮制作



(北水海道駅周辺) OSM上にプロットされた水害痕跡
(高水位位置表示箇所=高水位ステッカー残存箇所)



今後、オリジナルサイト連動させるかたちで地図上情報を充実化させることができる

2022
7/2
土

水害から6年10カ月…
街の過去と未来を見つめる

参加費無料

事前申込制

北水海道まちなか発見“千姫ウォーク” + 防災インタビュー記録映像上映 & ミニフォーラム



今年9月には関東東北豪雨水害から7年を迎えます。街中からは水害の痕跡がなくなりつつありますが、水害の危険性が無くなっているわけではありません。当会では今年も、水害の痕跡を街中に探しつつ、同時に町の面白い場所を見つける“発見ウォーク”を開催します。今回のサブテーマは大河ドラマ誘致活動も盛り上がる「千姫」。北水海道駅から千姫のお墓がある弘経寺までをケータイで写真を撮りながら歩きます。お寺では住職のお話も！

ウォーク後は北水海道の『えんがわカフェ』で、今年撮影した、水害の記憶をめぐるインタビュー記録映像作品を観賞、ミニフォーラムを行います。皆様ぜひご参加ください。

12:40 北水海道駅集合・出発 ..電車の場合: 水海道方面から12:32着 下館方面から12:23着

- 12:35 北水海道駅集合/受付 開会ご挨拶
 - 12:40 第一部 弘経寺に向け発見まちあるき 出発
 - 13:20 弘経寺到着 千姫墓見学、御住職のお話
 - 13:50 えんがわカフェに向け帰路発
 - 14:30 えんがわカフェ(北水海道)着
 - 14:35 ふりかえり会(参加者が撮影したケータイ写真を投影地図上にプロット)
 - 15:00 第一部終了
 - 15:10 第二部 水害を振り返るインタビュー映像作品上映(約30分)
 - 15:40 ミニフォーラム
『私たちの街はいま…水害7年目を迎えて、そして千姫を見つめて』
 - 16:20 終了
- (内容は変更になる場合があります)



弘経寺



昨年7月の水海道発見ウォークのようす

- ※ 集合場所の北水海道駅は改札一箇所で、初めての方も迷うことはありません
- ※ 昼食・トイレは各自済ませてからご集合ください(北水海道駅にはトイレ無)。
- ※ ウォークのふりかえり会と、それに続く水害記憶インタビュー映像作品上映を行う『えんがわカフェ』は、北水海道駅徒歩5分の場所にあります
- ※ 夏季のウォークのため、各自水分を十分にご持参ください
- ※ 雨天決行。皇天で降雨微妙な場合も、歩行中に降ってくることも考え、降りたため傘等雨具をお持ちください。
- ※ お申込みいただいた方でも当日体調が悪い場合は参加を見合わせてください。受付時に発熱がある方は参加をお断りします。

災害の教訓を次世代に語り継ぎ、地域の“光”を見つめる

見てみようよ！常総市の会

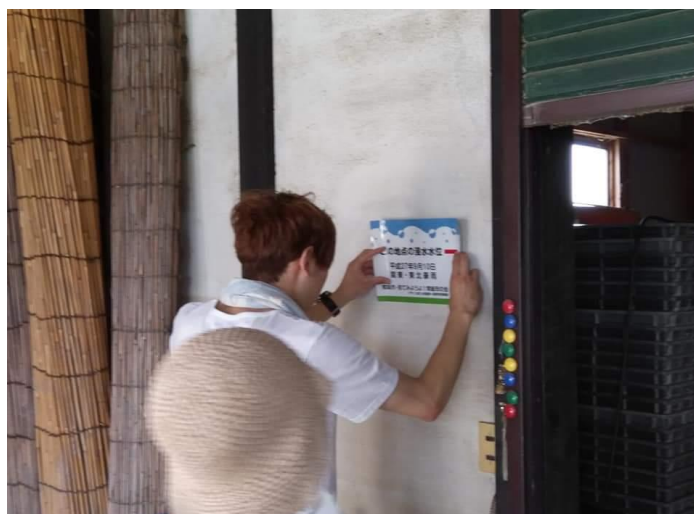
事前申込
お問合せ

染谷みどり (代表)
Uuh2k6537852v2b@ezweb.ne.jp
090-1836-9444

見てみようよ！常総市の会 は、平成28年2月、その約半年前に発生した関東東北豪雨水害の教訓を未来の世代に語り継ぐために結成された市民の会です。現在は水害の記憶(影)をふりかえるだけでなく、復興進む常総市の魅力(光)にも目を向け発信していこうとしています。

このイベントは真如苑助成事業の支援を受けて実施しています

告知チラシ



洪水水位のステッカーを貼る参加者
(2019年以前の活動風景から)

見てみようよ！常総市の会

見てみようよ！常総市の会 は、平成 28 年 2 月、その約半年前に発生した関東東北豪雨災害の教訓を未来の世代に語り継ぐために結成された市民の会です。現在は水害の記憶（影）をふりかえるだけでなく、復興進む常総市の魅力（光）にも目を向け発信していこうとしています。

ともに活動していただける仲間を募集しています。

お問合せ

染谷みどり（代表）

0uh2k6537852v2b@ezweb.ne.jp

090-1836-9444



見てみようよ！常総市の会

この冊子は2022年度防災教育チャレンジプランの支援を受けて制作されています